

だいたい最初から決断しなくてもいいという前提の情報ばかりで育っていったら、脳は考えるというをしなくなる。

現代は情報過多、脳が勝手に機能を停止 - セルフオーガナイゼーション -

現在の若者の中に分裂症に似た行動をする人たちが多くなってきている。ところが医学的には分裂症という診断はつけられない。なぜかというバイオロジーとしてどこかが壊れてそうなったものとはちょっと違う。幻覚がない。では行動学的にどういう症状かという、前頭前野を使っていない。情報が多すぎるんだね。メッシュの中に絵を描くと思ってください。象さん一つならわかる。だけど、その一つひとつのセル全部に絵があったらどうですか。そうするとノイズになっちゃうでしょ。教育が悪いとかそういう話じゃない。情報をカットしてあげればいい。

だいたい最初から決断しなくてもいいという前提の情報ばかりで育っていったら、脳は考えるというをしなくなる。脳自身が自分勝手にですよ。食って、しゃべって、覚えて、生きるというには、前頭葉はいらない。言語も使えるし、なんでもできる。

12歳までにちゃんと考えるということ

をしないと、脳は必要ないものになってしまうのね。その意味で数学教育は大切。そして、過程が大事なんだから答え合わせなんてしなくていい。結果だけが偉いなんていってたら、ものに対して判断しなくなっちゃうでしょ。4+8は、なんぞやを考えればいいんだよ。

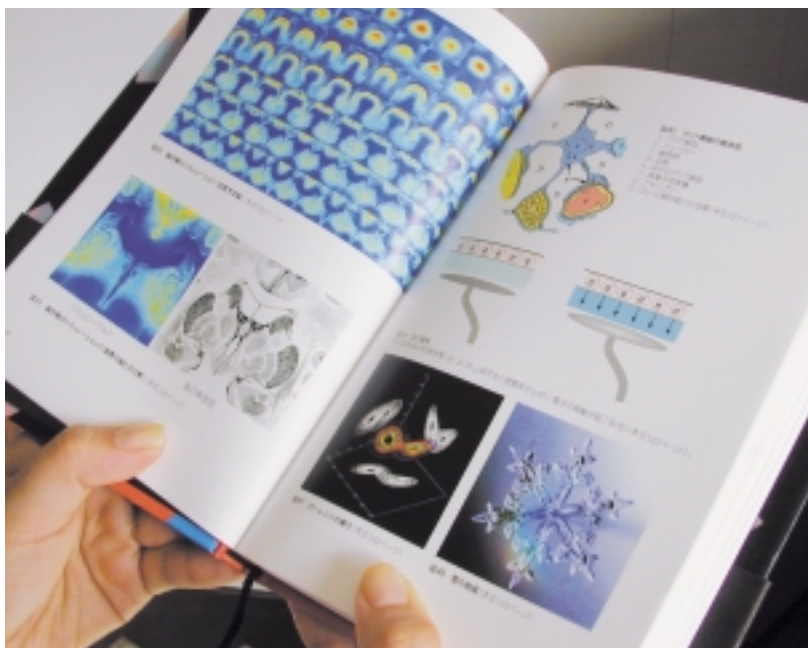
カネも要らない、名誉も要らない。
だけどももしろいことがある。

日本になぜ帰ってきたかってよく聞かれるんです。ここ（新潟大学）の人からもまだ数年はいてくださいねって言われるんですが、マグネット背負って逃げられませんかからと答えています（笑）。

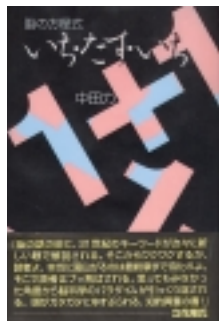
給料三分の一になって、出世する気もないし、けどちゃんとした機械（磁気共鳴装置）があって、そこにはおもしろいことがある。ちゃんとやるところを日本にもつくりたかった。

偉くなったってしょうがないしね。偉くなって何かをやらなければならなくなったら、威張んなきゃならないでしょ。根回し

日本はモノをつくっていくものに評価を与えない。だから、機械を真ん中にエンジニアも入ってみんなが研究する場所をつくりたかった。



脳方程式
いち・たす・いち
著者：中田 力
発行：紀伊国屋書店
1800円



もしたくない。だから真正面からいく。コネとか一切使わない。パカ扱いされることもあったけれど、今では真正面からいくのもいいという声も聞かれるようになったでしょ。

日本は、ちゃんとした施設をもっていない

偉くなったってしょうがないしね。
偉くなって何かをやらなければならなくなったら
威張んなきゃならないでしょ。

かった。だいたい、日本はモノをつくって
いくものに評価を与えない。だから、機械
を真ん中にエンジニアも入ってみんなが研
究する場所をつくりたかった。それを「学
際性」というキーワードで表現していたら
だめだっていう。なんていえばいいの？

また、新しい磁気
共鳴装置をつくる
よ。さらにちゃん
としたものをね。

インタビューを終えて



「お話に魅了され、気が
つくと2時間30分が経っ
ていた。」

「ご苦労様です」と笑顔で迎えていただいた教授室には、中田教授が受賞された数々のプライズが何気なく飾られ、また教授御愛用？の楽器とMR装置の模型が置かれていました。特集の意図を説明させていただいた後、「それでは最初の質問を。先生の御研究の概要をお話いただけますでしょうか」...私からの質問はこれが最初で最後で、

その後は中田教授に主導権を握られ通してでした。それでも、こちらの伺いたい内容は全て網羅して頂き、また具体例を引きながら話される内容は門外漢にも分かりやすく、充実したインタビューとなりました。時間は瞬く間に経過し、(1時間の予定が)気がつくと2時間30分を越えていました。

今回は誌面の制約のため、お話し頂いた内容のほんの一部しか紹介できないのが残念です。今回のインタビュー記事をご覧になって、中田教授の御研究に興味を持たれた方は、著書「脳方程式いち・たす・いち」を御一読下さい。

(工学部 鈴木敏夫)